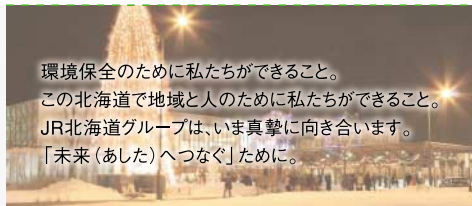


あした 未来へつなぐ

【地域共生】



環境保全のために私たちができること。
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来(あした)へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里砂



岩見沢複合駅舎が 「二〇〇九年度グッドデザイン大賞」を受賞。市民も 駅づくりに参加したそのプロセスが受賞の決め手！



本産業デザイン振興
会が主催する「グッ

ドデザイン賞」は五十年以上
にわたり、「優れたデザ
イン」を選び、産業の発展
に寄与してきた歴史ある賞
です。今年度は、公共施設
を併設したJR北海道の岩
見沢複合駅舎が最高賞の大
賞に輝きました。

レンガを効果的に
使い、古レールを窓
枠に組み込んだ駅舎
は周囲と調和し、「鉄
道のまち」として栄
えた岩見沢にふさわ
しい景観をたたえて
います。ただ、見た
目の印象だけが審査
の対象になったわけ
ではありません。審
査員たちの心を動か
したのは、市民が積
極的に駅づくりに参
画し、完成へと至っ



岩見沢市の公共施設としてセンターホールを配置した岩見沢複合駅舎。建物内には北海道教育大学岩見沢校のサテライトスペース「I-BOX」もある。撮影＝小川重雄

たそのプロセスにあります。
そもそも、この駅舎が誕
生することになった背景には、
約七十年の歴史を持つ三代
目駅舎の焼失という衝撃的
な出来事がありました。そ
の後、JR北海道では岩見
沢市と協議を重ね、初の試
みとなる一般公募型コンペ
により、三七六の応募の中



自分の名前が刻まれたレンガを
探したり、写真を撮ったりする
市民たち



平成19年6月に開催された
イベント「ありがとう！仮駅舎」。
6年半お世話になった駅舎に感謝！

からワークショップの
提案を採用。その決め手と
なったのは、市民も参加で
きる「刻印レンガ」の活用
でした。

「それが本当に実現するの
か、東京の会社であるワー
クヴィジョンズが市民とど
うかわりを持つのか、正
直不安がありました」と語
るのは、このプロジェクト
を推し進めてきたJR北海
道総合企画本部地域計画部
主幹の倉谷止さん。

しかし、ワークショップ
の代表・西村浩さんの

呼びかけで市民は自主的に
「岩見沢レンガプロジェクト
事務局」を発足。これにより、
世界中から参加者が集めら
れ、結果的に四七七七名の
名前がレンガに刻まれるこ
とになりました。

しかも、この活動をきつ
かけに、北海道教育大学岩
見沢校や岩見沢青年会議所
など、さまざまな団体や組
織を巻き込んで駅を中心と
した新しいまちづくりがス
タート。仮駅舎に感謝を示
すプロジェクト「ありがとう
！仮駅舎」、刻印レンガを
お披露目する「らぶりつく！
イルミネーション」ほか、
平成十八年からこれまでの
間に駅を拠点としたイベン
トが市民主導で行われ、そ
れらはまち起こしの起爆剤
ともなりました。

そこに暮らす人々に、希
望と可能性をもたらすこと
にもなった新しい駅舎。ま
ちづくりは今、始まったば
かりです。